

ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2025 年 11 月 11 日 15:30～16:30
説明者	常務執行役員 CFO 吉田 修
説明資料	2025 年度第 2 四半期（中間期）決算の概要 及び 2025 年度業績予想の概要

Q&A

■ ライフ&ヘルスケア・ソリューションセグメント

Q1. ライフ&ヘルスケア・ソリューションのコア営業利益が上期から下期にかけて+95 億円増益となる理由を説明して欲しい。

A1. 国内農業の需要期が下期であることが主な要因となります。また、農業について、カメムシを中心に害虫が多く発生していることや、米価高騰を背景とした、飼料米から食用米への移行や作付面積の増加等により、国内の殺虫剤や除草剤の需要が上期は堅調に推移しました。上期から下期にかけても、引き続き堅調に推移すると見込んでおります。また、オーラルケアにおきましても、実行している構造改善の効果が主に下期以降に発現してくることによる増益を見込んでおります。

Q2. 農業のブラジル在庫調整完了時期をいつ頃と見ているか説明して欲しい。

A2. 主にジノテフランの在庫調整影響が継続しております。現地の販売店等と在庫調整解消のための対応を行っており、徐々に在庫調整も解消してきており、今期中の影響解消を目指しています。

■ モビリティソリューションセグメント

Q3. モビリティソリューションのコア営業利益について、1Q（4-6 月）から 2Q（7-9 月）にかけて、△32 億円の減益となった理由を説明して欲しい。

A3. エラストマーにおきまして、市原およびシンガポールのプラントが 2Q に定期修理を行ったため、コストが増加しております。また、PP コンパウンドにつきましても、1Q に発生した原料価格の下落に伴う期ズレ益が、2Q で解消したことにより減益となっております。

Q4. モビリティソリューションのコア営業利益について、上期から下期にかけて、+10 億円となる理由を説明して欲しい。また、タフマーの多用途展開による数量増の見方についても説明して欲しい。

A4. エラストマーにおきまして、2Q の定期修理に伴うコスト増の解消による増益を見込んでおります。また、ARRK を含むソリューション事業につきましては、下期が需要期であることに加え、実行している構造改善の効果が主に下期以降に発現してくることによる増益も見込んでおります。一方、PP コンパウンドにおきましては、上期（1Q）に発生した原料価格の下落に伴う期ズレ益が解消することによる減益を見込んでおりますので、以上のプラス要素とマイナス要素の差し引きで+10 億円の増益を想定します。

タフマーの多用途展開につきましては、太陽電池封止材向け用途の需給環境が厳しい状況は変わらない一方で、高機能包装材料、エンブラ、シューズ用途向け等の拡販を進めています。また、自動車向け用途の拡販につきましても、契約上ターム契約となっているケースもあり、切り替えには一定の時間を要する見込みですが、しっかりと拡販を進めている状況でございます。

Q5. モビリティソリューションについて、シンガポールにおけるタフマー新プラント（以下、6TF）および市原における高機能 PP 新設備（以下、4PP）の稼働に伴う影響について説明して欲しい。

A5. 現在、6TF・4PP どちらも試運転中であり、現時点では下期中の本格稼働を見込んでおりますが、実際にいつ稼働するかという判断は、これから行ってまいります。稼働した場合、すぐにフル稼働での立ち上げにはならないと考えておりますので、稼働当初は販売数量増加による増益と固定費増加による減益が相殺され、今年度における大きなコア営業利益への影響はないと見込んでおります。

Q6. モビリティソリューションの為替影響について説明して欲しい。

A6. 今年度は、対前年で 153 円/ドルから 147 円/ドルへと 6 円の円高を前提としており、対前年で為替影響に伴う減益を見込んでおります。当該減益見込みには、エラストマー等における輸出の手取りが減少する影響に加えて、PP コンパウンドの北米を中心とした各拠点の為替換算に伴う減益も含まれております。

Q7. 上期における PP コンパウンドの各拠点の販売の動向について、要因の補足も含め説明して欲しい。また、上期から下期にかけての動きについても説明して欲しい。また、PP コンパウンドについて能力増強案件計画は無い認識なので、来年度の PP コンパウンドは、今年度から横ばいのイメージを持てばよいかについても説明して欲しい。

A7. 上期における PP コンパウンド全体の販売数量は、対前年で若干減少している程度でほぼ前年度並みです。拠点別には、北米において米国関税政策の影響を含む自動車生産台数の減少の影響により△5%程度減少する一方で、ASEAN におきましては、前年度の自動車生産台数減少からの回復や、インドネシアなどタイ周辺地域における販売増加等により+10%程度増加しております。

上期から下期にかけては、北米において若干のマイナス、一方で主に日本においてプラスにより、PP コンパウンド全体としては概ね横ばいで見込んでおります。

来年度につきましては、現状すべての拠点がフル稼働状態というわけではなく、各拠点でアロケーションが可能な生産・供給体制を構築しておりますので、当面の数量増に関しましては、対応可能と考えております。また、PP コンパウンドにつきましては、それほど大型の投資にはならないと考えておりますので、今後大きく数量が伸びることが確認された場合につきましては、都度能力増強などを実施してまいります。

■ ICT ソリューションセグメント

Q8. ICT ソリューションの半導体・光学関連材料の販売状況について説明して欲しい。また、上期においては、先端領域が堅調であったと認識しているが、下期にかけて調整・スローダウンする動きがないかについても説明して欲しい。

A8. 半導体関連材料につきましては、ペリクル（EUV・DUV）が先端領域を中心とした需要拡大に伴い、対前年で+20～30%程度拡販しております。また、イクロステープにつきましても、先端領域からレガシー領域まで幅広く採用されている製品でございますが、在庫調整が続いていたレガシー領域の調整が回復基調に入っており、堅調に推移しました。イクロステープについては、5 月の段階では先取り需要に注視が必要とお伝えしておりましたが、足元では先端領域を始め全般的に販売堅調な状況が、下期も継続すると見込んでおります。また、TPX も液晶反射シート用途のバックライト部材として堅調に推移しております。

Q9. ICT ソリューションのコア営業利益について、上期から下期にかけての動きについて説明して欲しい。通常であれば、半導体関連材料は上期型（4Q：1-3 月に収益が落ち込む）と認識しているが、半導体・光学、ICT フィルムシートの収益悪化を、コーティング機能材がカバーするため、上期から下期にかけて大きな増減はないと見込んでいるとの理解でよいか説明して欲しい。

A9. コーティング機能材につきましては、非常に安定しており、かつ規模も相応にあるため、上期から下期にかけても安定したコア営業利益を見込んでおります。また、半導体・光学、ICT フィルムシートにつきましても、ご指摘の通り 4Q（1-3 月）に春節等の影響で販売が落ち込む傾向にございますが、3Q（10-12 月）は需要期であり、また半導体関連材料の需要が堅調であることも踏まえると、上期から下期にかけても、大きな増減はないと見込んでおります。

■ ベーシック&グリーン・マテリアルズセグメント

Q10. ベーシック&グリーン・マテリアルズのコア営業利益について、前回（8/7）の上期予想△80 億円から、上期実績△105 億円と、△25 億円悪化した理由について説明して欲しい。

A10. 低稼働に伴うエネルギー効率の悪化や、一部製品の市況につきましても厳しい状況が続いていることに加え、大牟田工場の TDI トラブル影響により、前回の上期予想から減益となりました。クラッカーおよび誘導品の需給悪化の影響が徐々に顕在化していると認識しており、クラッカー再編を含め、需給バランス改善のための再構築を早急に進める必要があると引き続き考えております。

Q11. ベーシック&グリーン・マテリアルズのコア営業利益が上期から下期にかけて+140 億円増益となる理由を説明して欲しい。

A11. 上期における市原大規模定期修理等の影響および在庫評価損の△70～80 億円程度が、下期において解消することを見込んでおります。構造改善効果についても、市原フェノールの停止、中国フェノール JV 持分譲渡、大牟田 TDI 生産能力最適化を実行し、上期から下期にかけて+20～30 億円程度の改善を見込んでおります。また、韓国の持分法適用会社である錦湖三井化学の MDI 事業が上期は定期修理の影響を受けていたため、上期から下期にかけて+20 億円程度の改善を見込んでおります。加えて、コストダウン等も含め、上期から下期にかけて増益を見込んでおります。

Q12. クラッカーの稼働率について、下期の前提を説明して欲しい。

A12. 下期につきましては、引き続き 80%弱の低稼働を見込んでおります。

■ 共通

Q13. 大牟田工場のトラブル影響について、上期△20～25 億円の内訳を説明して欲しい。また、下期の挽回生産影響についても説明して欲しい。

A13. 上期△20～25 億円のうち、△20 億円程度はライフ&ヘルスケア・ソリューションにおいて発生しています。内訳別には、リカバリーのための代替調達、用役ロスの発生等で半分弱程度、残りはメガネレンズモノマーの在庫消化影響（在庫固定費）、一部副産物の外販減に伴う機会損失となります。在庫部分につきましては、メガネレンズモノマーは非常に販売堅調であるため、増産のタイミング確保が困難ではありますが、下期以降に増産対応を図り、挽回に努めてまいります。また、ライフ&ヘルスケア・ソリューション以外の残りの数億円については、ベーシック&グリーン・マテリアルズにおいても、一部減販影響が発生しています。

Q14. 成長領域の構造改善効果について、Kulzer（オーラルケア）や ARRK（ソリューション事業）を中心に、下期に向けてどのように発現していきそうか説明して欲しい。

A14. 成長領域の構造改善につきましては、Kulzer や ARRK を中心に、拠点の整理等も含めたコスト構造の最適化による収益性の改善を図っております。おおむね計画通りに進捗しており、下期以降、徐々に効果が発現してくると見込んでおります。

Q15. 25 年度の非経常項目の予想を、期初（5/13）予想△120 億円から、今回予想△150 億円と、△30 億円悪化で見込んだ要因についても説明して欲しい。

A15. アセットライトによる資本効率改善を目的として、効率の悪い資産の廃棄を進めており、今回の予想に織り込みました。

以 上